

第36回東京国際映画祭レポート



会期： 2023年10月23日—11月1日

TOKYO FILM 2023 10.23(Mon) - 11.1(Wed)

第36回東京国際映画祭はアジアの映画祭としての特徴が顕著であった。「アジアの未来」部門の作品賞に、イランの28歳で新人のメヘディ・アスガリ・アズガディ監督『マリア』が受賞した。この映画はテーマやカメラワークやサスペンスにヒッチコックの『めまい』の影響が反映している作品であるが見応えする。

黒澤明賞を受賞した中国のゲー・シャオガン監督の作品や、東京グランプリを受賞した中国映画『雪豹』は秀逸している。『雪豹』は5月に急逝したチベット映画の先駆者ペマ・ツェテン監督の遺作である。希少生物を捕らえるだけで違法だと主張する役人、補償が先だと主張する羊飼いの激突、そして修行中の僧侶の山での雪豹との出会いを思い出すシーン… チベットだけでなく、日本や欧米で頻発している題材をグローバル視点でとらえて、生活様式の摩擦という普遍的な問題を描いている。

第36回東京国際映画祭企画プロジェクトの報告によると、上映作品数は48ヵ国・地域の219本で、前年比25%増に拡充。予算は1億円増の9億円超。イタリア、中国、台湾、香港、韓国、バスクなど海外との共催・提携企画を増やした。海外ゲスト数は去年の19倍の約2000人、と報告されている。今後の交流に期待したい。



東京グランプリを受賞『雪豹』



5月に急逝したチベット映画の先駆者ペマ・ツェテン監督の最後の作品である。白い豹が生息するチベットの山村。若いチベット僧と豹との交流をファンタジックに描き、人間と動物の共生の可能性を探る。

英題： Snow Leopard

監督： ペマ・ツェテン

出演： シンパ、シヨン・ズーチ、ツェテン・タシ

『マリア』

ネット社会における映像の流出、ひとりの女優の失踪、その謎を追う映画監督…。事件の真相を求めてミステリー・タッチで描かれる緊迫のイラン作品。

英題： Maria

監督： メヘディ・アスガリ・アズガディ

主演： カミヤブ・グラマイエー、パンテア・パナヒハ、サペル・アパール



上述の2作品『雪豹』、『マリア』に関しては、再度の一般公開日を心待ちしたい。

第36回 TIFF 取材レポート

塚田三千代（映画アナリスト／MCDB 映画と文化データベース委員会）